千曲時報

毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）

編輯發行人　香山清和
發行所　長野縣上田市上田蠶絲專門學校　千曲會
印刷所　長野縣上田市原町　中澤印刷所

榮達の秘訣（前）

石倉新十郎

榮達もしなかつた者が榮達の秘訣を知つてる筈がないと言へば眞に尤もの道理である。然し失墜の反對が榮達であるとするならば、榮達しなかつた者の經驗の中に榮達の途を示すものがないとは言はれまい。同じ様な失墜を若い人達に繰り返させたくないと思ふのが人情である。榮達の秘訣と言つてさう好奇心を湧かす程のものでない事勿論である。然しまた人格を磨け健康を增進しろなどゝ御座なりの事を言ふ積りでもない。年寄り藝者の手管の種子位にしか當らぬ事かも知れないのである。

人は誰でも向上榮達を望むで止まない者と此所に假定する。然れば人は其れを望むで堅忍不拔の苦闘もし、誠心誠意の努力もするのである。そしてサラリーマンは只管上役に認められんことを念願する。幸ひに認められ何等かの形で其れが表明されると勇氣振興して益々奮勵努力するのは年齢を問はず誰にも共通の心理であらう。上役の認識を計量する基準は何んであらう。其れは上役の自己に對する態度と待遇とを以てするより他に途はない。そして其の表現や待遇が自己の思惑と吊り合はぬと思つた時には必ず不平が起るのである。其れが他人に比べて偏頗であると考へられた時、不平は決して穩かなものではあり得ない。此所が即ち悲喜劇の開幕である。

此所で氣の弱い怜悧の人は上役に對し阿諛の態度に出るか或は泣きを入れる事になるであらう。弱い上に性來溫順の人は隱忍たゞ認められる時の來るのを待つと言ふ事になるであらう。どうしても女性的態度に出るのが自然である。然し之と反對に男性的で氣の強い人になると、若し氣が短かければ反感を抱いて遂に自暴自棄に傾いて行くであらう。幸に思慮深い人であるならば克己奮勵是非認めさせなければ止まないと言ふ風に一層馬力を懸けるであらう。そこで上役の人物と部下の性質から種々の組合せが出來上り悲喜劇が深刻に發展して行くのである。

人の性質は十人十色であるが、此所では男性の強い人と弱い人とに別ける事とする。勿論之れは比較的のものであるに相違ないが、同じ人で時に強くなりまた弱くなつたりする人は弱い人の部類に屬するのである。男性的に強い人は文字通り男性的で理解すれば心まで融合一致するのが通有性である。其の反對に弱い人は必ず妥協的であつて、理解した様に見えても心の奥には一枚の隔てを設けて常に自己の爲めの用心を忘れない。強い人は部下の者の強弱は選ぶ所でない。然し何れかと言へば強い者に親しむ傾向がある。弱い人は部下に強い者のあるを餘り喜ばない。從つて弱い部下に親しまんとするのが自然である。一般世間を見渡しても強い人は甚だ少く弱い人が極めて多いと同様に男性的強い上役は甚だ稀れであつて、多くは弱い上役である事を覺悟しなければならないのである。

弱い上役の下に居る弱い者は泣きを入れたり阿諛の態度に出るのが最も良策と見える。隱忍努力では終に頭の伸びる時はないのである。直接間接認められて居る様に思はれても、總花式待遇より一歩も出られない事を覺悟すべきである。

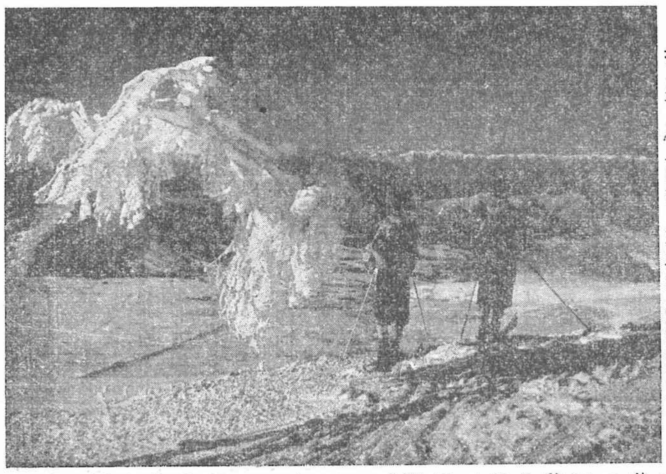
弱い上役の下にある強い部下は反抗的態度に成りたがる。自暴自棄は勿論問題にならぬが、上役の弱點を見付けて脅喝的に自己を持すれば案外安泰の結果を生ずるらしい。之には相當平素の研究と用意を忘れてはならない筈である。人格的克己奮闘では棚の牡丹餅は落ちさうで終に落ちて來ないから眞に不思議である。

強い男性的上役の下にある弱い人は泣きを入れて同情を買ふのが安全であり、阿諛は却つて侮蔑を買つて榮達の望みはないものと考ふ可きである。隱忍は遂に信用をかち得て決して棄てられる心配はないのである。

強い上役の下に居る強い部下が反感を抱いたり自暴自棄的になれば結局は絶緣である。克己奮勵は必ず大きな幸福を以て酬ひられるであらう。眞の榮達は唯此の組合せにのみ限ると言ひ得やう。

現在自己の境遇が幸に良い組合せになつて居る者は喜ぶ可きであるが、上役が時々代る境遇にある人は常に惱みである。カメレオンの様に上役次第で自己の性質を自由に變へる事が出來ない以上特に純眞硬骨の男性には俄かに態度を變へる事は絶對不可能であると言へる。こう言ふ惱みに出逢ふのが不運であつて、自己の都合と環境の趨勢を洞察して去就を決定しなければならなくなる。獨身の間は眞に強者であり得るが、妻子を持つ様になると自然弱くならざるを得ないであらう。斯くなれば既に事實弱いのである。曾ては純眞硬骨の男性であつたとしても、既に弱くならざるを得なくなつた自己の認識を誤つてはならないのである。上役が變つた爲めに良い組合せにならなくなつた時は多くの場合隱忍時の到るを待たなければならないであらう。輕擧斷行は絶對に愼まなければならないのである。

上役の人物實体か強弱果して何れであるかと識別するには相當期間直接出逢つて見なければ不可能であらう。弱い人でも男である以上強い所を誇張して人に示す傾きがある。誇張は已に弱い證據である。清濁併せ吞む如く見せるのも必ず弱い人である。無暗に我を張る者は我儘であつて強いのではない。眞の強者は正理には直ちに之を承服する。強情我儘は慾に執着が強いからで、慾の滿足には猫の如く弱くなる人である。又權力金力のある地位の人は強者の外觀を呈しては居るが、其れを失ひさうになると見るも憫れな弱者となる。眞の強者は慾のない人あきらめの早い人である。斯う言ふ風に人を相すれば正体明瞭天眼鏡で睨む樣である。



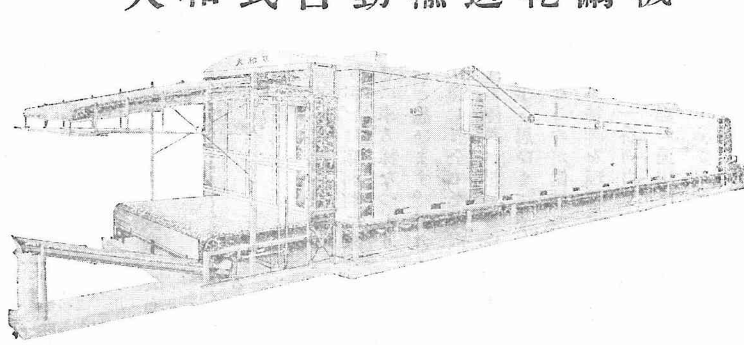
菅平（上田市、石坂寫眞舘撮影）

現代乾繭機界ノ王座

大和式自動輸送乾繭機

二五九七年代表型

【各種型錄贈呈】



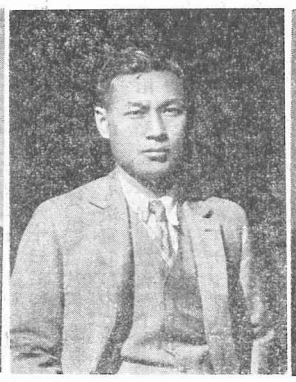
營業課目
特許大和式自動輸送乾燥機
特許大和式自動人絹乾燥機
特許帶川三光式乾燥裝置
特許やまきホイロ
特許サンコー式濾過淨水裝置
特許サンコー式廢湯吸熱器
特許サンコー式高壓ポンプ
特許サンコー式トラップ

製作發賣元
株式會社
大和三光商會
東京京橋區京橋三丁目二番地
電話京橋(56)五三二〇番

母校ニュース

野口助教授に昇進せらる　母校紡織科助教授野口新太郎氏は十二月廿八日附を以て教授に任ぜられた。紡織科にとつて非常に强みを增した譯で大いに腕を振つて戴き度いものである。同氏は東筑摩郡神林村の出身、松本一中を經て母校絹絲紡績科大正十二年（第二回）卒、十五年九月迄日本絹織株式會社大聖寺工場に勤務され昭和二年より福井縣生絲檢査所勤務五年八月母校講師となり七年四月助教授に任ぜられ現在に至つたものである。

小林（尙）講師助教授に任ぜらる　母校紡織科講師小林尙一氏は十二月廿八日附



昇進された野口新太郎氏（右）及小林尙一氏（中）と退職された竹下文英氏（左）

を以て助教授に任ぜられた。衷心よりお祝ひ申上げる次第である。同氏は新潟縣中頸城郡泉村の出身、有恒中學を經て母校絹絲紡績科昭和四年（第八回）卒、六年九月迄大正製腦株式會社富山工場勤務、八年七月母校副手、十年四月講師を囑託され現在に至つたものである。

母校忘年會及竹下氏送別會　十二月廿八日午後五時半より觀水亭に於て今回退職せらるゝ事となつた竹下文英氏の送別會を兼ねて學校忘年會を開催した。出席者は五十八名、校長の挨拶、井上教授より職員を代表して感謝の辭があつて宴に入り七時半頃阿形講師發聲にて萬歲を三唱し散會した。

拜賀式　一月一日午前九時より講堂に於て四方拜々賀式を擧行した。

竹下文英氏退職せらる　母校教務課勤務囑託竹下文英氏は一月四日附を以つて退職せられた。同氏は上田市の御出身、大正三年母校に雇として庶務課に勤務され十年一月書記に任ぜられ昭和七年三月退官、勳六等に敍せられ以來事務囑託として庶務課に勤務されてゐたものである。勤續年數實に廿三年の長期に亘り學生は教官の名前は知らなくも同氏の名前は知らぬ者は無かつた位有名であつた。三月迄は現在の市內丸堀町に住居され次いで長野へ轉住される御豫定と承る。御齡六十才、御自宅にあつて盆栽作りに餘生を送らるゝと云ふがそれにしては惜しい位な豐繰たる御樣子に拜見される。

手塚達郎氏榮轉　養蠶科蠶体生理實驗室蒲生教授の下に副手として勤務されてゐた手塚達郎氏（蠶廿一）は今回名古屋市愛知縣廳內愛知縣蠶業取締所に榮轉される事になり一月八日附退職され同日赴任された。

校長令孃の御慶事　母校針塚校長の五女美津枝嬢（二二）は帝國大學農學部長佐藤寛次博士の媒酌に依り埼玉縣兒玉郡の素封家野口家の令息、農林省農務局農產課勤務野口平吉氏（三一）と婚約整ひ一月十日東京牛込一平莊で華燭の典を擧げられたが新郎は帝大農科及經濟科出身の秀才、新婦は上田高女から東京ドレスメーカー女學院を卒業せる才媛である。將來長く幸多からん事を祈る。

三學期開始　冬期休暇は一月十日迄で十一日は時間割發表十二日から三學期授業が開始された。

鑓塚好作氏新任　曩に養蠶科蠶體生理學實驗室に勤務せられし副手鑓塚好作氏（蠶廿二）は金澤輜重兵聯隊に入營中の處滿期除隊となり今回退職せられし手塚達郎氏の後任として一月十一日より再び同實驗室に副手として勤務せらるゝ事となつた。

スキー指導者講習會　文部省主催第五回スキー指導者講習會は一月七日より十五日迄菅平高原體育研究所に於て開催されたが本校よりは宮坂收、平尾孝平の兩氏が受講され宮坂氏は指導者の資格を獲得された。

三學期總代任命　第三學期の正副總代は一月十八日附左の如く任命された。

正總代
蠶三　望月藤夫
蠶二　若林康弘
蠶一　長末方夫
絲三　西原美登
絲二　吉川啓人
絲一　南木嘉一
紡三　矢澤登
紡二　柳澤柳二
紡一　吉田耕三
教二　柳澤ときわ
教一　中村泰子

副總代
多田忠正
市原政治
齋藤重利
叶澤弘
阿部豊
佐藤忠
矢崎勝
福永雄三
淺井清
飯森としえ
中澤澄子

談話會例會　三學期の談話會は小林尙一（紡）、鷹野誠一（絲）、宮坂收（蠶）の三氏が幹事として世話される事となつた。然してその第一回例會を一月廿九日午後四時より第十一教室に於て開催されたが談話者及題目は左の如くである。

一、米國生絲事情の二、三　山崎嘗錄

田中技師講演　朝鮮總督府技師田中明氏の御來校を機とし一月廿九日午後一時十分より四時迄及び三十日午前九時より十二時迄講堂に於て「朝鮮に於ける蠶絲狀況に就て」と題し全校生徒に對し講演を願ひ職員も多數聽講し多大なる感動を與へた。

蒲生俊文氏講演　一月三十日午後一時十分より四時迄講堂に於て財團法人勞資協調會產業福利部長蒲生俊文氏（蒲生教授の令兄）の「勞働管理の基調と安全運動」と題する講演があり全校生徒及び職員多數聽講し得る處が多かつた。

西川晋氏新任　以前養蠶科圃場部に勤務され十一月廿八日近衞輜重聯隊に輜重兵特務兵として入營せられし西川晋氏（蠶廿三）は無事任務を終つて除隊され一月三十日より再び副手として圃場部に勤務せらるゝ事となつた。

卒業證書授與式案內

拜啓　愈御淸穆の段奉慶賀候陳者來る三月十五日午前十一時より本校內に於て第二十四回卒業證書授與式擧行可致候に付御貴臨の榮を得度此段御招待申上候　敬具

昭和十二年三月一日

上田蠶絲專門學校長　針塚長太郎

卒業生各位

追て披宴會場準備の都合も有之候に付き御臨席の有無乍御手數必ず前日迄に御一報相煩度爲念申添候

入學案內

一、募集人員　養蠶科、製絲科、絹紡織科、通計約百名
一、出願期日　一月十一日より三月十五日迄
　　試驗檢定　一月十一日より一月卅一日迄
　　無試驗檢定
一、試驗科目　數學（代數、平面幾何）　英語（英文和譯）
一、試驗期日　三月廿五日（午前學科、午後體格檢査、口頭試問）
一、試驗場所　上田（本校）　東京（外國語學校）　名古屋（愛知縣廳）　京都（高等工藝學校）　福島（高等商業學校）　福岡（九州帝大農學部）
一、入學案內書入用者は郵券二錢封入本校教務課宛申込次第送附す

製絲教婦養成科入學案內

一、募集人員　約二十名
一、出願資格　一、高等女學校卒業者又は之れと同等の學力を有すと認むるもの
　　二、高等小學校卒業後一箇年以上製絲業に從事し其の成績優秀なるもの
一、出願期日　一月十一日より三月廿五日迄
一、試驗科目　數學（算術、代數、平面幾何）　國語（作文を含む）
一、試驗期日　三月廿六日
一、試驗場所　上田（本校）
一、入學志願者心得入用者は二錢切手封入本校教務課宛申込まれた

上田蠶絲專門學校

臺北だより

臺北市　倉澤生

時下春暖の候などと言へば零下何十度の上田にゐる諸兄には想像も及ばない事と思ひますが現に臺北の氣候は春暖の候です。正月の一日と言ふのに十七、八度の氣溫です。臺北では十月から四月頃迄は信州の五月末期から六月初旬の氣溫に相當してゐます。七、八、九月は熱帶地臺北は非常に暑く寢てゐても汗が出ます。內地ですと避暑には高山溫泉海水浴等に行きますが、此處では一番良い避暑方法として赤熱の如き大陽光に浴し乍ら戶外運動をする事が推奬されてゐます。ですから臺北帝大では素人の運動競技が非常に盛んです。小泉先生の野球、田中兄の庭球は學內で有名なものです。

× ×

私は蠶專時代に大學とは如何なるものであるか少しも知らず、唯學問にあこがれて大學に來ました。靜かに過去三ケ年を振り返つて見ますと、別に大した收穫も無い樣ですが唯未知問題にぶつかつた時に如何にしたら其の問題を科學的に解決する事が出來るであらうかと言ふ事が僅か乍ら解つた樣な氣がします。

× ×

蠶專の樣な傍系から大學に來るのは邪道であると言ふ人があるが私はあながち邪道とは考へません。兎に角蠶絲業に關しては蠶專校では文化のトップを發育する事は事實ですが專門學校の敎育の大体の方針はこれは何んであるかを敎へ、大學での方針はなぜ斯樣になるかを敎へるのである事は一般に信じられてゐる處です。故に專門學校程度以上に學問をしたい人があつたならば其の人は當然大學に來るべきであると思ひます。但し專門學校の存在意義を考へる時國民が巨大なる費用をかけて建設せる專門學校は當然專門學校として重要なる任務があると考へられます。故に斯樣な重要なる任務のある專門學校の大部分の卒業生は當然直ちに社會に出て發展すべきであります。

× ×

大學の非常に良い事は各部（此場合には綜合大學を意味する）即ち理學部、農學部、文政學部、醫學部等の各部があり自分の好き次第に各部の先生の講義を受ける事が可能な事です。且つ學生時代には自分の友人に各部に行つてゐる者をする事が出來ますから雜談中でもお互ひの學問を語りますので知らずの間に自己の學問のレベルが上昇して行きます。寺田博士は次の樣な事を言つてゐます。

「年の若い學生時代から何んでも彼でも澤山に遠慮なく惜氣なく問題の仕入をして置く方がよくはないかといふ氣がする之には始めから餘り一つの問題にのみ執着して他の事に盲目になるのも考へものではないかと思ふのである」と。

× ×

臺北帝大には理農學部、文政學部、醫學部の三部がありますが今私は私達に最も關係ある理農學部につき御詳解しませう。理農學部は農學科、農藝化學科、生物科、化學科の四科に別れてゐます。

生物學科＝熱帶臺灣の生物學に關する研究は非常に興味ありますが卒業生の就職口があまりありません。

農學科＝今日臺灣は農業全盛時代ですから農學科の卒業生の就職率は非常に良く主に製糖會社其の他の會社及官界に進出して居ります。

化學科＝臺灣に於ける化學工業はこれからです。樟腦、香料、天然瓦斯、アルミニューム、藥品等は今後の臺灣の重要產物であります。之等は主に化學科で研究されますので化學科卒業生の就職率ば次第によくなつてゐます。

農藝化學科＝卒業生は製糖會社、煙草工場、アルコール工場、肥料製造會社及官界等に就職をしてゐます。今日の處就職率の一番良好なのはこの科です。

× ×

以上各科共第一次募集は定員より遙に少く、第二次募集として傍系からの入學を許可します。今まで試驗場は臺灣のみでしたが今年から臺北の外に東京で試驗が出來る樣になりましたので同窓諸兄の中で勉强をしたいと希望される方は是非來て下さい。試驗其他に關らぬ事がありましたら私迄御一報下されば私の知つてゐる範圍で御說明致します。

懸賞募集　絹物愛用宣傳標語

東京丸ノ內　日本中央蠶絲會

一、募集の趣旨

蠶絲業は日本の重要なる產業であり、且つ絹の特質若しくは其の高雅優美なる點を强調し所謂『絹の良さ』を簡明直截に大衆に訴へ之を强く印象付け絹に對する一般國民大衆の認識を深め更に進んで之を愛用せんとする經濟的若しくは嗜好的意慾を誘發するに足る宣傳標語を求む。

二、應募規約

一、應募の標語は未發表の創作たること
二、應募の原稿は返却せざること
三、當選標語の版權は本會の所有とすること
四、當選標語と雖も補正加筆することあるべきこと
五、應募者は官製ハガキに住所、氏名を明記し『**應募原稿**』と朱書『**東京市麴町區有樂町一ノ七日本中央蠶絲會宣傳部**』宛郵送のこと、但し葉書一枚一首たること
六、當選標語にして本規約に違反し若しくは不正ありしことを發見したる場合は當選の取消し又は賞金の返還を爲さしむること

三、賞金

一等　一人　金參拾圓也
二等　三人　各金拾圓也宛
佳作　一〇人　各絹製國旗一旒宛

四、選者

久米正雄氏
高倉輝氏
岡本英太郎氏

五、締切期日

昭和十二年三月二十八日（蠶絲祭日）

六、發表

蠶絲界報六月號（昭和十二年）

上田便り

十二月中織物生産增加　上田織物同業組合管内十二月中織物生産額は絹織物四千二百五十二點一万九千九百廿四圓、絹綿交織二點三圓、毛織物三百六十五點三百九十三圓、其他四點九圓、計四千六百廿三點二万三百廿九圓で前年同月比三百九十點二千六百八十五圓を增加した。之は生絹無地縮緬增産に依るものである。

武德殿上棟式　武德會上小支所が二万數千圓を投じて建設する皇太子殿下御降誕記念の武德殿は曩に上田市出身在京手塚守二氏から一万圓の寄附を得て先づ本館建設に着手中であつたが十二月廿三日の皇太子殿下御降誕記念日の午後三時から招魂社東の現場で成澤支所長以下三百名參加して上棟式を擧行した。殘額は上小全部市民より洩れ無く寄附を求め附屬建物等一切を明年三月末迄に竣工させる筈である。

溫電北東線時刻變更　上田溫電では十二月廿六日から當分の間北東線上田發眞田行を左の如く改正する。（◎印は不定期スキー電車、×印は不定期）

午前◎四時〇五分、◎四時三七分、◎五時一五分、◎五時五五分、六時三六分、◎七時〇六分、七時四五分、八時四五分、九時二九分、一〇時四〇分、一一時二四分、午後一二時三〇分、一時〇八分、二時三五分、三時三九分、四時四五分、五時五〇分、六時五八分、七時五三分、八時四〇分、九時二五分、一〇時一〇分

別所北向觀音二年詣　十二月廿一日の夜から一月一日朝にかけて行はれる別所北向觀音參詣は繭高と豊作で久振りに景氣付いた上陽氣も手傳ひ參詣者多く電車丈で三千二百人之れにバスが千數百人、此の外に從歩やハイヤーを飛ばした人を加へると七八千人から一万人はあつたらうと云ふ近年にない人出で觀音の境内から參道は身動きもならぬ雜踏を見、旅館は超滿員であつたと云ふ。

スキヤー激增　長野運管内の信越スキー場に暮の廿八日から正月五日迄に入込んだスキーヤーは高田外六驛を通じ降車十二万八千四百六十八人にて前年同期に比し六千六百五十人の增加、乘車は十二万六千五百八十八人で之れ又百七十九人の增加を示し收入は六万九千七百五十圓（運賃、手小荷物共）で三千八百十四圓の增收となり本冬稀有の雪不足にも拘らず好成績にてホク〳〵である。

八日堂緣日　上田市外神川村國分寺藥師八日堂緣日は一月七日夜から八日にかけて行はれたが珍しい暖氣の快晴に惠まれ且つ豊作繭高インフレ景氣の餘波を受けて近在よりの人出非常に多く例年の如く商工會議所では上堀及八日堂驛より寺迄に百數十個の雪洞を點じ省線、丸鐵、溫電、東信バス、國道バス等は臨時增發を行ひ乘降人員を例年に比し遙かに多かつた樣である。

新興キネマのロケ　新興キネマの溝口監督山路ふみ子等一行二十餘名は一月十日別所溫泉へ來り十一日には西鹽田から和田峠方面に赴き雪を背景にロケーションを行つた。

上田消防組改組　上田市内七消防組は今回部制に改組、之を一丸とした上田市消防組を結成、初代組頭には縣議瀧澤一郎氏を推薦縣へ認可申請中の處一月十六日附認可の指令に接し從來の七組頭は部長となつた。

特約取引の打合　産繭處理法實施に伴ふ特約製絲及特約組合代表者懇談會は一月十九日上田蠶取支所に開かれ

△特約契約は今春來既に改組されて實行組合との間に行ひ一實行組合一特約製絲の方針で進む事

△蠶品種は郡指定品種日一一一×支一〇七、歐一八×安泰、平和×安泰等を飼育する事を支所側より指示

兩者協議を行つたが本年支所管下で特約取引を行ふ製絲は左の如くである。

田中製絲、信濃絹紡、高木製絲、笠原組上田工場、丸子製絲、中村製絲、昭榮須坂工場、鐘紡松本工場、片倉下諏訪工場、丸與製絲、丸子金タ製絲、片倉上田出張所、笠原組岡谷工場、傍陽社

繭市場側の對策共同出荷決定　上田蠶取支所管内八生繭市場業者は一月廿二日支所内に産繭處理對策協議會を開催、一實行組合へ製絲の特約契約取引の發展に對應して生繭市場としても何等かの方法を以つて行くべき必要に迫られるので協議の結果繭市場としては實行組合との間に共同出荷契約を行つて市場に生繭を吸收する事に意見の一致を見るに到つた。實行組合の改組に依り一市場一實行組合單位の取引を以てすると一年一組合四千貫の生繭を吸收出來然も此の共同出荷契約は任意に行ふ事が可能なので具体的方法決定次第繭市場は共同出荷契約に依つて製絲側に對抗一齊攻勢に出るものと見られてゐる。

スキー講習會　文部省主催スキー練習會並にスキー研究協議會は十二月三十日から一月三日迄、スキー指導訓練講習會は一月七日から十五日迄菅平文部省体育研究所で開催された。

本縣學務部主催のスキー講習會は一月廿八日より二月廿四日迄菅平スキー場の青年講習所を合宿所に開催されたが縣主催として最初の事と指導者が斯界の權威者許りの事とて受講の申込は殺到してゐるが一月廿二日迄の申込は左の如し。

△廿八九日東京松坂屋山岳部五十名、△廿八日上田高女五十名、△二月六日上田高女五十名、△十四日愛知縣一宮山岳會八十名、△十三四日縣聽内スキー大會、△廿一廿四日縣下學校職員百名

上田スキークラブでその事業の一つとして第一回スキー練習會を一月二十三（土）二十四（日）の兩日菅平スキー場に開催したが參加資格は制限無く上級、中級、初等に分けて行つた。指導者はクラブ員小山壽太郎、今井輝雄、六川忠一郎、丸山清巳、萩原貞雄の諸氏であつた。

菅平のカーニバル祭　一月廿四日（日曜日）菅平スキー場に於て菅平スキー倶樂部主催東京日日新聞、上田スキー倶樂部後援にて雪のカーニバル祭及アマチュアースキー競技會が開催され中央より文士久米正雄、佐々木茂索、佐々木ふさ子、榮須坂工場、鐘紡松本工場、片倉下諏訪工場、丸與製絲、丸子金タ製絲、片倉上田出張所、笠原組岡谷工場、傍陽社

繭市場側の對策共同出荷決定　上田蠶取支所管内八生繭市場業者は一月廿二日支所内に産繭處理對策協議會を開催、一實行組合へ製絲の特約契約取引の發展に對應して生繭市場としても何等かの方法を以つて行くべき必要に迫られるので協議の結果繭市場としては實行組合との間に共同出荷契約を行つて市場に生繭を吸收する事に意見の一致を見るに到つた。實行組合の改組に依り一市場一實行組合單位の取引を以てすると一年一組合四千貫の生繭を吸收出來然も此の共同出荷契約は任意に行ふ事が可能なので具体的方法決定次第繭市場は共同出荷契約に依つて製絲側に對抗一齊攻勢に出るものと見られてゐる。

スキー講習會　文部省主催スキー練習會並にスキー研究協議會は十二月三十日から一月三日迄、スキー指導訓練講習會は一月七日から十五日迄菅平文部省体育研究所で開催された。

本縣學務部主催のスキー講習會は一月廿八日より二月廿四日迄菅平スキー場の青年講習所を合宿所に開催されたが縣主催として最初の事と指導者が斯界の權威者許りの事とて受講の申込は殺到してゐるが一月廿二日迄の申込は左の如し。

△廿八九日東京松坂屋山岳部五十名、△廿八日上田高女五十名、△二月六日上田高女五十名、△十四日愛知縣一宮山岳會八十名、△十三四日縣聽内スキー大會、△廿一廿四日縣下學校職員百名

上田スキークラブでその事業の一つとして第一回スキー練習會を一月二十三（土）二十四（日）の兩日菅平スキー場に開催したが參加資格は制限無く上級、中級、初等に分けて行つた。指導者はクラブ員小山壽太郎、今井輝雄、六川忠一郎、丸山清巳、萩原貞雄の諸氏であつた。

菅平のカーニバル祭　一月廿四日（日曜日）菅平スキー場に於て菅平スキー倶樂部主催東京日日新聞、上田スキー倶樂部後援にて雪のカーニバル祭及アマチュアースキー競技會が開催され中央より文士久米正雄、佐々木茂索、佐々木ふさ子、足立源一郎、小林秀雄、今日出海、映畫女優香取千代子、立花泰子、祇園初枝、櫛名文江、織田千惠子の諸氏來場し假裝行列を行ひ引續きダボスでアマチュアスキー競技會を行ひ登滑走、アベックリレー、福拾ひ、旗取等の珍競技を行つた。

松竹大船女優ロケ　一月廿四日菅平で行はれたスキー祭に參加した松竹大船女優香取千代子、立花泰子等は水尾助監督生田技師の下に三月封切の「春の女性」のロケをダボスで行ひ歸京した。

浦里のドリル工場擴張　農村更生の模範村として全國的に知らるゝ小縣郡浦里村では兼ねて農村工業化の一としてドリル工場を建設目下男女二十名で從事し好成績を擧げてゐるが今回之を擴張して從業者を三十名とする事となつた。一方更に男子を中心とする旋盤工場をも開設し自動車部分品其他器具の製作を開始する段取りになり一月廿七日二青年を柏崎理研工場へ見習に派遣し三ヶ月後歸村せしめ事業を開始する事となつた。右の外三ケ年修業の同理研徒弟學校へ此の程六名送り尙本年卒業の小學生十名も近く選定の上入學せしめる事になつた。從つて是等生徒が歸村する頃になれば愈々本格的に農村工業計畫が立てられると期待されてゐる。

菅平スキー場の景氣　菅平スキー場は正月二日には上田驛通過來場者二千四百四十八名にて合計滯在客菅平四千名、新鹿澤千三百名に達し昨年同日來場者千三百人に比し約倍と云ふ增加を示したが之は田口關山方面の有力スキー場が雪が無い爲め押寄せたものである。然し菅平も雪飢饉で菅平土合間はスキーで滑降不能橇は動かず荷馬車でスキーヤーを運ぶと云ふ始末であつた。從つてスキー景氣は例年は大体暮の廿五日頃から正月十日頃迄であるのが本年は正月五日迄に短縮され一時の來場者は多かつたが結局の收入は却つて減少と云ふ樣な事になつたらしい。然して一月下旬から二月初旬に掛けて降雪多く本格的になつたがもう後の祭であつた。

丸松乾繭初取引　松本市の丸松繭市場では今回三、八の日を乾繭取引日と決定廿八日午後二時半より其第一回取引を行つた。買人廿四人一時間で終了したが總取引高七千五百二十貫（生繭二万三千貫）で高値百六十二圓八十錢、安値百三十五圓、平均百五十一圓八十錢であつた。

製絲釜數の整理　製絲王國長野縣では同縣産業上の重大問題たる製絲釜數整理案に付き此の程關係者會議を開いた結果現在の設備釜數七万九千釜に對し十分の三を整理すべく決定した。即ち約二万五千釜が減少し整理後の信州營業製絲は約五万三千釜となり之と同時に組合製絲の整理も早晩斷行される筈である。兎に角全盛時代は十万釜を運轉したものであるが之等は既に過去の夢となる譯である。

上小の史蹟を保存　上田中學校は上田城主松平公の屋敷跡であるがその當時より殘れる正門及土塀が腐朽して危險となつたが原型の儘改築し史蹟として促存したいと云ふので土屋校長は縣、市、同窓會、校友會、舊藩士の人達から寄附を仰ぎ三千圓の工費で愈々改修工事に着手する事となつた。然して市では一月廿七日の市會に於て八百圓の寄附を決定した。

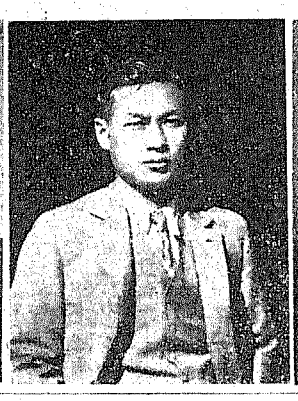
豊野小諸内ガソリンカー運轉　長野運輸事務所ではバスに對抗して都市と近郊を結ぶガソリンカーの運轉を計畫中であつたが一月十七日新型四万一千號カーを用ひ七十五人分の重量を積み小諸より長野迄の試運轉を行つたが現行列車の一時間卅二分に比し約三十分の時間短縮となり特に坂城戸倉間は時速八十キロと云ふ特急燕を凌ぐ快速を示し好成績を收めたので地方民の要望も容れ之を豊野小諸間に延長し七月頃より運轉する事に内定したが大体昼間三往復、各驛間に一停留所を設ける模樣である。

桑園整理打切り　本縣の桑園整理計畫は昭和七年より實施されつゝあるが十二年度を以つて打切られる。此の間の整理豫定面積は六年未現在七万六千町歩が十二年度は六万五百八十町歩に整理される豫定であると。

母校ニュース

野口助教授に昇進せらる　母校紡織科助教授野口新太郎氏は十二月廿八日附を以て教授に任ぜられた。紡織科にとつて非常に強みを増した譯で大いに腕を振つて戴き度いものである。同氏は東筑摩郡神林村の出身、松本一中を經て母校絹絲紡績科大正十二年（第二回）卒、十五年九月迄日本絹絲株式會社大聖寺工場に勤務され昭和二年より福井縣生絲檢査所勤務五年八月母校講師となり七年四月助教授に任ぜられ現在に至つたものである。

小林（尚）講師助教授に任ぜらる　母校紡織科講師小林尚一氏は十二月廿八日附



昇進された野口新太郎氏（右）及小林尚一氏（中）と退職された竹下文英氏（左）

を以て助教授に任ぜられた。衷心よりお祝ひ申上げる次第である。同氏は新潟縣中頸城郡泉村の出身、有恒中學を經て母校絹絲紡績科昭和四年（第八回）卒、六年九月迄大正製麻株式會社富山工場勤務、八年七月母校副手、十年四月講師を囑託され現在に至つたものである。

母校忘年會及竹下氏送別會　十二月廿八日午後五時半より觀水亭に於て今回退職せらるゝ事となつた竹下文英氏の送別會を兼ねて學校忘年會を開催した。出席者は五十八名、校長の挨拶、井上教授より職員を代表して感謝の辭があつて宴に入り七時半頃阿形講師發聲にて萬歳を三唱し散會した。

拜賀式　一月一日午前九時より講堂に於て四方拜々賀式を擧行した。

竹下文英氏退職せらる　母校教務課勤務囑託竹下文英氏は一月四日附を以つて退職せられた。同氏は上田市の御出身、大正三年母校に雇として庶務課に勤務され十年一月書記に任ぜられ昭和七年三月退官、勳六等に敍せられ以來事務囑託として庶務課に勤務されてゐたものである。勤續年數實に廿三年の長期に亘り學生は教官の名前は知らなくも同氏の名前は知らぬ者は無かつた位有名であつた。三月迄は現在の市内丸堀町に住居され次いで長野へ轉住される御豫定と承る。御齢六十才、御自宅にあつて盆栽作りに餘生を送らるゝと云ふがそれにしては惜しい位な瓔珞たる御樣子に拜見される。

手塚達郎氏榮轉　養蠶科蠶体生理實驗室蒲生教授の下に副手として勤務されてゐた手塚達郎氏（蠶廿一）は今回名古屋市愛知縣廳内愛知縣蠶業取締所に榮轉される事になり一月八日附退職され同日赴任された。

校長令孃の御慶事　母校針塚校長の五女美津枝嬢（二二）は帝國大學農學部長佐藤寛次博士の媒酌に依り埼玉縣兒玉郡の素封家野口家の令息、農林省農務局農産課勤務野口平吉氏（三一）と婚約整ひ一月十日東京牛込一平莊で華燭の典を擧げられたが新郎は帝大農科及經濟科出身の秀才、新婦は上田高女から東京ドレスメーカー女學院を卒業せる才媛である。將來長く幸多からん事を祈る。

三學期開始　冬期休暇は一月十日迄で十一日は時間割發表十二日から三學期授業が開始された。

鎧塚好作氏新任　曩に養蠶科蠶體生理學實驗室に勤務せられし副手鎧塚好作氏（蠶廿二）は金澤輜重兵聯隊に入營中の處滿期除隊となり今回退職せられし手塚達郎氏の後任として一月十一日より再び同實驗室に副手として勤務せらるゝ事となつた。

スキー指導者講習會　文部省主催第五回スキー指導者講習會は一月七日より十五日迄菅平高原體育研究所に於て開催されたが本校よりは宮坂收、平尾孝平の兩氏が受講され宮坂氏は指導者の資格を獲得された。

三學期總代任命　第三學期の正副總代は一月十八日附左の如く任命された。

正總代
蠶三　望月藤夫　多田忠正
蠶二　若林康弘　市原政治
蠶一　長末方夫　齋藤重利
絲三　西原美登　叶澤弘
絲二　吉川啓人　阿部豊
絲一　南木嘉一　佐藤忠
紡三　矢澤登　矢崎勝
紡二　柳澤柳二　福永雄三
紡一　吉田耕三　淺井清
教二　柳澤ときわ　仮森としえ
教一　中村泰子　中澤澄子

談話會例會　三學期の談話會は小林尚一（紡）、應野誠一（絲）、宮坂收（蠶）の三氏が幹事として世話される事となつた。然してその第一回例會を一月廿九日午後四時より第十一教室に於て開催されたが談話者及題目は左の如くである。

一、米國生絲事情の二、三　山崎雷錄

田中技師講演　朝鮮總督府技師田中明氏の御來校を機とし一月廿九日午後一時十分より四時迄及び三十日午前九時より十二時迄講堂に於て「朝鮮に於ける蠶絲狀況に就て」と題し全校生徒に對し講演を願ひ職員も多數聽講し多大なる感動を與へた。

蒲生俊文氏講演　一月三十日午後一時十分より四時迄講堂に於て財團法人勞資協調會産業福利部長蒲生俊文氏（蒲生教授の令兄）の「勞働管理の基調と安全運動」と題する講演があり全校生徒及び職員多數聽講し得る處が多かつた。

西川晋氏新任　以前養蠶科圃場部に勤務され十一月廿八日近衛輜重聯隊に輜重兵特務兵として入營せられし西川晋氏（蠶廿三）は無事任務を終つて除隊され一月三十日より再び副手として圃場部に勤務せらるゝ事となつた。

卒業證書授與式案内

拜啓　愈御清穆の段奉慶賀候陳者來る三月十五日午前十一時より本校内に於て第二十四回卒業證書授與式擧行可致候に付御貴臨の榮を得度此段御招待申上候　敬具

昭和十二年三月一日　上田蠶絲專門學校長　針塚長太郎

卒業生各位

追て饗宴會場準備の都合も有之候に付き御臨席の有無乍御手數必す前日迄に御一報相煩度爲念申添候

入學案内

一、募集人員　養蠶科、製絲科、絹紡織科、通計約百名
一、出願期日　試驗檢定　一月十一日より三月十五日迄
　無試驗檢定　一月十一日より一月卅一日迄
一、試驗科目　數學（代數、平面幾何）　英語（英文和譯）
一、試驗期日　三月廿五日（午前學科、午後體格檢査、口頭試問）
一、試驗場所　上田（本校）　東京（外國語學校）　名古屋（愛知縣廳）　京都（高等工藝學校）　福島（高等商業學校）　福岡（九州帝大農學部）
一、入學案内書入用者は郵券二錢封入本校教務課宛申込次第送附す

製絲教婦養成科入學案内

一、募集人員　約二十名
一、出願資格　一、高等女學校卒業者又は之れと同等の學力を有すと認むるもの
　二、高等小學校卒業後一箇年以上製絲業に從事し其の成績優秀なるもの
一、出願期日　一月十一日より三月廿五日迄
一、試驗科目　數學（算術、代數、平面幾何）　國語（作文を含む）
一、試驗期日　三月廿六日
一、試驗場所　上田（本校）
一、入學志願者心得入用者は二錢切手封入本校教務課宛申込まれた

上田蠶絲專門學校

校友會ニュース

映畫觀賞會生る　最近市内有志に依り外國名畫を月に一回宛上映する事となつた。之に對し母校に於て有志相寄り利用を協議の結果今回此處に蠶專映畫觀賞會なるものを設立し左記規程に依り會員を募集してゐたが申込者八十三名に達し職員では荻原、廣川、倉澤(恒)、片岡(金)の諸氏が加入され役員も決定したので一月七、八の兩日その第一回觀賞會を上田劇場に於て催した。上映々畫は朱金昭、狂亂のモンテカルロ、商船テナシチーの三編であつた。

蠶專映畫觀賞會規程

一、本會は映畫を通じて高尚優雅なる藝術的情操を養ひ併せて會員相互の親睦を計るを目的とす

二、本會は上田蠶絲專門學校映畫觀賞會と稱す

三、本會入會者は一會期間會員たる資格を有し、其の間脱會する事を得ず。但し委員に於て止むを得ざる事情と認めたる場合は此の限りにあらず。一會期は四月より翌年三月迄の一ケ年とす

四、會員たるものは出缺の如何に拘らず開催一回につき會費二十錢を納入すべし

五、本會には左の役員を置く

會長　一名
庶務委員　一名
會計委員　一名
通常委員　若干名
クラス委員　若干名

會長は本校職員中より推戴す。庶務委員、會計委員、通常委員は三學年より會員之を選擧す。クラス委員は各クラスの會員之を選擧しクラスに一名とす

六、本會員は左の特權を有す

1、上田劇場に於て毎月一回づゝ催さるゝ名畫觀賞會に無料にて入場觀賞する事を得

2、名畫觀賞會に上映さるゝべき東和商事提供の映畫選定に關する發言權を有す

3、上田劇場に於て音樂會、舞踊會等の行はるゝ際には特別便宜を與へらる

七、入會資格は本校學生及び職員に限る

寒稽古　恒例の寒稽古は一月十五日より二週間に亘り柔劍道は毎朝五時半より七時迄依田、廣川兩師範指導の下に母校道場に於て、弓道は毎朝七時より八時迄母校弓場に於て行はれた。本年は寒氣激しくなかつたので例年より樂の樣に見えた。校長先生は御病氣の爲め見えられなかつたのは淋しかつたがそれでも井上、和田、原田、岡、佐藤(春)、蒲生、野口、谷、小林(尙)、郡筑、湯原、宮原の方々が見え特に岡、野口、小林、湯原、宮原の諸氏が學生中に交つて稽古せられた御元氣には感心した。斯くて最終日廿八日には汁粉の饗應があつて盛會裡に終了した。皆勤者は柔道一年間五十一名内三年間十七名、劍道一年間五十九名内三年間六名、弓道は一年間十四名であつた。

柔道寒稽古納會試合　一月廿八日午前五時半より母校道場に於て柔道寒稽古納會試合を行つた。戰績左の如し（側線は學生以外、選手を除く）

先鋒○湯原　黄
×岸本　土山○×
○宮坂　山岸
渡邊　内海
○太田　納谷○○
×○○下田　進野○
○藤田　西井
○柳澤(六)　富永×
尾崎　桂
○○木村　小林(九)○
×江崎　柳澤○○
×野口　宮田
×○飯田　阿久津○×
○小柳　北澤×
東畠　佐藤
大將○内間　小林×

叙任辭令

母校職員之部

十二月二十八日　助教授　野口新太郎
同　大塚重藏
任上田蠶絲專門學校教授
叙高等官七等、十一級俸下賜　副手兼講師　小林尙一
任上田蠶絲專門學校助教授、給八級俸　助教授　荻原清治
仝　山口定次郎
仝　香山清和
給五級俸
一月四日　事務囑託　竹下文英
願ニ依リ事務囑託ヲ解ク
一月八日　副手　手塚達郎
願ニ依リ副手ヲ免ス
一月十一日　鎧塚好作
副手ヲ命ス、養蠶實習室勤務ヲ命ス
一月十五日　教授　正五位勳五等　遠藤保太郎
叙從四位　教授　正六位勳六等　蒲生俊興
叙高等官三等
一月十八日　小山俊吾
副手ヲ命ス、製絲科勤務ヲ命ス
一月三十日　西川晋
副手ヲ命ス、圃場實習部勤務ヲ命ス
蠶職員之部　正六位　早野清三郎
叙勳六等授瑞寶章(一月十三日)

卒業生之部

從七位　江頭辰雄
同　三好彌市
叙正七位(以上十二月十五日)
生絲檢査所技師　宮入誠一
同　伊藤勢龜
七級俸俸下賜　大塚重藏
同
八級俸下賜(以上十二月二十四日)
地方農林技師　菅原勇治
七級俸下賜(十二月二十六日)
同　小林庸
九級俸下賜
同　三好彌市
十一級俸下賜(以上十二月二十六日)
公立實業學校長　佐藤俊三
九俸級下賜(十二月三十一日)
公立實業學校教諭　刈田恭一
七級俸下賜(十二月三十一日)
同　橋本廣
八級俸當分千四百圓下賜(十二月卅一日)
朝鮮産業技師　矢澤茂登一
六級俸下賜(十二月三十一日)
公立實業學校教諭　小島五郎
年功加俸年額金百九拾貳圓下賜(一月十日)
茨城縣立石岡農學校教諭　本谷良雄
公立實業學校教諭ニ任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル
茨城縣立石岡農學校教諭ニ補ス
七級俸當分千四百八拾八圓下賜(一月十日)
從五位　上原清夫
叙勳六等授瑞寶章(一月十三日)
公立實業學校教諭　黑江文雄
同　吉野健吉
叙シテ高等官五等ヲ以テ待遇セラル
同　中澤勝也
叙シテ高等官六等ヲ以テ待遇セラル
(以上一月十五日)
公立實業學校教諭　波多野千里
陞シテ高等官五等ヲ以テ待遇セラル
蠶絲試驗場技師　高須兵司
蠶絲試驗場福島支場飯坂出張所長ヲ命ス
(以上二月一日)

蠶絲學雜誌九ノ二内容と九ノ三原稿募集

蠶絲學雜誌九ノ二は此の時報の屆く頃諸兄の御手許へ御屆け出來るでせう。續いて九ノ三も近日印刷にかゝる豫定です。大至急原稿御送り下されば間に合ひます。

九ノ二内容目次

報文

一、絹絲構造に關する研究……　金子英雄
二、桑樹ヴィラス病の研究……　遠藤保太郎
三、桑樹各部の生長に伴ふ含水量の變化　……　岡部康之
四、原蠶に於ける飼料の相違が次代蠶に及ぼす影響　……　莊崇蕊

綜說

家蠶血組織の發生並に機能に關する研究概說　……　蒲生俊興

本會記事

本會日誌

十二月十八日　千曲時報一月號の發行日變更屆を名古屋遞信屆へ提出す。

十二月十九日　理事並に委員集合代議員會決議事項處理上に關し協議す。

同　日　在田同窓生の忘年會懇親會開催す。

一月十五日　米澤工業會へレコード調製上に關する參考資料照會す。

一月二十日　山梨高工より本會の組織及其の內容に關し照會あり。

一月二十六日　理事會開催レコード調製時報經營等の件協議す。

一月二十九日　安城農林學校長清水冽氏御逝去に付弔電を發す。

清水先生記念品贈呈資金募集

拜啓　時下愈々御清適之段奉慶賀候　偖て御承知の如く清水先生は大正六年八月母校御就任以來實に十有八年の久敍に亘り或は母校教官として或は校友會部長として全力を傾けて御盡瘁下され母校のため貢獻せられしこと眞に大なるもの有之吾々會員一同平素感謝措かざる所に御座候然るに先般御家庭の御都合により御鄕里に近き名古屋市立工業指導所染織部長に御榮轉せられ既に新任地へ御赴任被遊候就ては此の際先生の御功績を讃え且多年の勞に酬いん爲め資金を募集し記念品を贈呈し聊か感謝の微意を捧げ度く候間左記要項御諒承相成御贊同の上御醵金被成下度此段御依賴旁々得貴意候　敬具

募集要項

一、醵出金額　御隨意

一、申込期限　昭和十二年四月末日迄

一、送金先　上田蠶絲專門學校千曲會

便宜上千曲會の振替貯金口座（長野六二四三番）御利用相成度尙「清水先生記念品贈呈資金」なる旨御明記願上候

一、受領證　千曲時報に掲載し受領證に代ふ

一、記念品選定及贈呈方法は發起人に御一任相成度

昭和十二年一月

發起人（五十音順）

飯島貞雄　井上一郎　伊藤友次郎
蒲生俊興　河西荷一　笠原正巳
香山清和　北澤常雄　倉澤美德
小松忠一郎　佐藤一　須田圭二
竹內善吾　田口博輔　野口新太郎
林貞三　濱香三　平澤勝
松岡潔

校歌に關し佐藤氏に答ふ

倉澤生

本紙先月號に御發表になつた、佐藤荷雄氏の校歌愛蒼論に對しては、吾等も亦、萬腔の誠意を以て贊意を表するものである。

今回、本會に於て企圖しつゝあるレコードの作製は、決して校歌を替えやうとする大それた考へを持つのでは無い。然し更に一つの新歌を加へやうとする所に多少校歌とかゝはりがあるから一應御說明を申し上げたいと思ふ。

一昨年の代議員會に群馬千曲會から、片面に校歌を入れ片面に母校長の音聲を容れたレコード作成の議案が提出された。蓋し場所と時とを問はず母校長の聲咳に接したいと云ふ希望なのである。勿論此の議案は滿場一致を以て通過を見たのであが此の場合、たま〳〵校歌是非が話題に上つたのである。

抑〻本校の校歌は、歌詞、曲譜とも莊重嚴肅其のものにて、唱和しつゝ思はず眼瞼に涙する程のしんみりさを持つことに對しては何人と雖も異論はない。然し多少勇壯活潑な氣分をそゝるべき場面に適應するには大いに難色のあることも亦、異論の無い所である。玆に於て、嚴肅な校歌に併行する勇壯な新歌の存在を必要とする聲が起るのも當然である。例へば對校マツチに氣勢を上げる場合、三科合併でエールを交はす場合、吾々會員にしても支會總會等に於て宴席をさしはさんで輕く母校の香を味ふ場合等に於ては、今回の新歌が目的に合致しそうである。こんな見地にたつて新歌作製の議が產れたのであるから何等校歌の存在を冒瀆しないことを御承知願ひ度い。

殊に、校歌を幾分でも傷くることを恐れて、第二校歌とか云ふやうな言葉を用ゐず、校友會歌とでもしたいと云ふ儀がある。之等は學校當局が、各要路にはかつて、作製せらるゝわけであるが、仄聞する所によると、前揭の趣旨を目的とし、名は校友會歌とし、歌詞は校友會員並に千曲會員より懸賞募集し、選歌は北原白秋氏あたりを煩はし、堀內啓三氏等の大家に作曲して貰ひ、少くとも來學年早々に完成したいと着々準備を進めて居らるゝ樣子である。何れ詳細は決定次第本紙によつて御紹介する。

此の會歌が出來上つた後に、レコードの製作にかゝる心意である。

清水先生記念品贈呈資金寄附者氏名　第二回

金五圓也　一ノ宮市　佐藤一
金參圓也　北澤常雄
金貳圓也　浦山藤吉
高品喜一郎
金壹圓五拾錢也　みすゞ會
金壹圓也　尾澤敏男
大矢健次郎　湯澤重敬
勝田清三郎　山名亨四郎
星田磐　小林忠十郎
木曾信雄　高木信雄
右合計參拾四圓五拾錢也
累計金六拾四圓五拾錢也

吊慰金報告

井上滿三氏吊慰金第三回
金參圓也　中島靜太郎
金貳圓也　齋藤利雄
金壹圓也　糟谷遠三郎
古東幹太
右合計金拾參圓也
累計金貳拾四圓也

會費領收（二月五日現在）

昭和十一年度通常會費納入者

（○印は蠶絲學雜誌代共）

磯野良知（蠶二）○寺島親雄（蠶三）
濱井壽夫（蠶二）　宮島庄平（蠶七）
緒方善之助（蠶八）○石原石司（蠶八）
○平石兵衛（蠶十三）○加々井精喜（蠶十三）
○松本一二（蠶十六）○桑原與四石衞門（蠶十六）
金澤勇（蠶七）○山本賢市（蠶十六）
○六川忠一郎（蠶十六）○村田一由（蠶十六）
○市川信一（蠶二十）　北澤延榮（蠶二十）
○町田博（蠶廿二）　倉澤恒夫（蠶廿二）
○中村壽一郎（蠶廿三）　横山良毅（蠶廿三）
小笠原利一（絲四）○好士泰造（絲八）
○內山鶴雄（絲十三）　笠原松平（絲十三）
○正木章三（絲十六）○成尾喜八郎（絲十六）
○關三四郎（絲十九）　延命幸次（絲十九）
後藤政之（紡二）　宮下丈夫（紡四）
平林茂（紡八）　山名亨四郎、紡十二）
勝田清三郎（紡十二）

千曲會規則第九條第一項第三號による未納會費納入者

金五圓也　矢澤茂登一（蠶一）　玉木勝彥（蠶一）
原田兵衛（蠶一）　菅原勇治（蠶一）
菅澤隆三（蠶一）　岩本市郎（蠶一）
小高喬（蠶二）　幾田精一（蠶二）
淺見好雄（蠶二）　松岡道也（蠶四）
野崎清（蠶四）　白澤幹（蠶五）
浦山藤吉（蠶五）　尾見祐八（蠶五）
江頭辰雄（蠶五）　宇都宮休一（蠶六）
大井學（蠶六）　猪坂直一（蠶六）
小林勳（蠶六）　太田清藏（絲一）
府川作平（絲二）　兒玉忠雄（絲二）
飯島直（絲三）　杉野壽一（絲三）
松尾順策（絲四）　佐藤金六（絲五）
手塚芳太郎（絲五）　手塚雄一（絲六）
岡村源一（絲六）　市村清男（絲六）
唐木田藤五郎（絲六）　陶山專三（絲六）

金四圓也　藤勝四郎（蠶一）　野本治兵衛（蠶六）
石坂虎治郎（絲五）
金參圓也　山本辰五郎（蠶一）
中尾小太郎（蠶四）　堀本省一（蠶二）

昭和十年度分通常會費納入者

金四圓也　都炅華（蠶二十）

昭和十二年度分通常會費納入者

金四圓也　母袋忠右衞門（蠶廿三）　笠原松平（絲十三）

入會金納入者

完納者
枇杷木瀧雄（蠶九）　武田一好（蠶九）
小林修（蠶二十）　頓富正慶（蠶二十）
有我彰夫（蠶二十）　吉田太郎（蠶二十）
高野賢造（蠶廿二）　大木定雄（絲九）
山本金之助（絲二十）　大岩巖（絲廿二）
一之瀨茂（絲廿二）　林正平（絲廿二）
金丸功（絲廿二）　三宅農富榮（絲廿二）
北澤常雄（絲廿二）　松崎武雄（紡十）
吉田義夫（紡十三）

金五圓也　百瀨哲一（蠶十八）　和田敦（蠶十八）
桐生義文（蠶九）　宮澤岬（蠶九）
竹內博夫（蠶九）　赤池勝夫（蠶二十）
矢野宗彥（蠶二十）　仁尾幾朗（蠶二十）
倉元隆太（蠶二十）　杉浦卓三（蠶二十）
金洛禎（蠶廿二）　山岸恒一（蠶廿二）
齋藤利雄（蠶廿二）　水谷清（蠶廿二）
石原滿洲夫（蠶廿二）　藤井宗雄（蠶廿二）
坂口育三（蠶廿二）　青木幹夫（蠶廿二）
鎧塚好作（蠶廿二）　森山貞（蠶廿二）
松本武（蠶廿二）　鈴木重孝（蠶廿二）
北原至（蠶廿三）　田澤輝雄（蠶廿三）
熙（蠶廿三）　岡庭武治（蠶廿三）
戴元亨（蠶廿三）　川中貞次（蠶廿三）
宮城時久（蠶廿三）　坂本勝三（蠶廿三）
鈴木中（蠶廿三）　井野正夫（絲十八）
鈴木玄九（絲十八）　古平庄衞（絲十九）
依田實（絲二十）　水上精一（絲二十）
坪根克彥（絲二十）　長谷川恒三（絲二十）
三宅勳（絲二十）　服部彌一郎（絲二十）
小林進（絲二十）　新村五郎（絲廿二）
市原文雄（絲廿二）　牛草榮喜（絲廿二）
太田三郎（絲廿二）　西山德治（絲廿二）
森剛夫（絲廿二）　林英雄（絲廿二）
小川茂治（絲廿二）　武者忠彥（絲廿二）
田口清一（絲廿二）　今村覺治（絲廿二）
尾澤敏男（絲廿二）　河野辨太郎（絲廿二）
宮坂三郎（絲廿二）　田中實（絲廿二）
山木辰雄（絲廿三）　末次房一（絲廿三）
佐久間幸一（紡十）　鈴木力（紡十二）
野間直之（紡十二）　北澤琢郎（紡十二）
篠田正信（紡十三）　向井孫市（紡十三）
淺治製裝男（紡十三）　矢島行雄（紡十三）
木下重政（紡十四）　細井政吉（紡十四）
小澤利雄（紡十四）

千曲會規則第九條第一項第二號による一時金納入者

金貳拾圓也　太田慎一郎（蠶六）　須田國之助（絲四）

昭和十一年度蠶絲學雜誌代納入者

金壹圓也　湯川秀夫（蠶一）　倉澤美德（蠶二）
高島秀男（蠶二）　須田圭二（蠶二）
岸勝彌（蠶三）　五島眞喜太（蠶四）
吉野健吉（蠶四）　太田慎一郎（蠶六）
萩原孫三（蠶六）　山口定次郎（蠶十二）
宮坂收（蠶十八）　茅野功（蠶九）
坂口育三（蠶廿二）　小林敏（蠶廿二）
關博夫（蠶廿二）　田口敏夫（絲一）
塚田鎭慶（絲二）　兒玉忠雄（絲二）
鷹野誠一（絲十七）　萱野恒（絲二十）
松浦彰義（絲廿二）　清水英一（絲廿二）
小松忠一郎（紡十三）

支會通信

筑波風

去る十二月號の代議員會報告を見るに茨城支會提案第四に於て無試驗入學者推薦の件に於て地方有力者の子弟の無試入試を許す事とありたるは誤りも甚だしいものである。當日代議員は二回に亘り次の如く强調したと信ずる。

『同窓生特に農蠶學校職員をして地方有力者の子弟を無試入試者として極力當局に推薦せしむる樣本部に於て配慮されたい』。

即ち無試入學有資格者として推薦せしむると云ふのである。若し筆記錄が本部の報告の如くならば筆記者の怠慢或は報告本部の……？

○

扨て申しおくれましたがと云ふ所これも丑年の故か。昨年十月十七日殊更の吉日を選んで支會總會を水戸市環翠亭に開く。上田の觀水亭の思出を求めてか時節柄多忙の數人の先生を除いて全會員集る。

會場は此の館最高最上の室、窓を拂ひておばしまに立てば色町の情緒を眼下に擴る甍の波は水府三十五万石の城下町太き明るき一線は江戸へ江戸への一筋道。

寂滅び世の傳は古く三千年夢を宿すや松並木影もまばらに老ひにげる。參勤交替三百年江戸の風雲急なり飛脚水戸兒魂血潮は躍る。回天維新の業を遂げて薫る梅香神州男子。偕樂公園見のあたり湧き出る詩情止み難し。常盤木に紅葉の點綴する櫻山の小丘影を鶯して金波銀波に水鳥の羽ばたき絶へぬ仙波沼。時移れば月影も映ずらん。此の高樓の眺め盡きず。

『雨が降るかや　仙波は曇る
何故に淋しい　彼の娘の瞳
泣くな逢ふ瀬のないぢやなし』
『集ひ寄る友はいふなり　眺めよし
酒肴よし　色さらによし』

○

吾人の努力足らずと云ふか、本部の斡旋泛しと云ふが集る友の顔にも新鮮味がない（本部には會員轉任準備名簿なんてないのだらうか）。而も水戸では四季の小會がある事とて、やあーお久し振りでなんて云ふ話も聽へない。集つても他方によく聽く亂飲暴食亂舞などの話も出ない。水府は日本精神の發祥地とや。藝妓迄ガッチリしてゐるらしい。

中山鑑一氏は永年の支會長として其の勞を犒ふの言葉もなし。新支會長は今西郷の佐藤義助氏若し時を得て理事長の職にも立たば等と將來を望む者多し。野に置くは餘りにも惜しき存在かな。而も多種多藝にして顏中瞳かと思はる樣な大きな目玉を針の孔程に細めて今流行の野崎詣りのフォルクソングを振り而白く踊られたるに一同感歎しばし野次も出ずず。

光は東より千曲會精神は水戸よりか

蠶絲業精神は上田蠶專校歌より

我等は徑二尺餘の陣太鼓を打ち鳴しつゝ燃ゆる口焔に例によりて校歌を合唱して散會。控目に飲んだ酒ではあつたが、發列車　上り下りを　戸まどひし

人もあるらし　今日のうたげに

新任役員左の如し。（文責　中會根）

顧問　中山鑑一
支會會長　佐藤義助
兼代議員
副　〃　橋本廣
幹事　榊原春彦
〃　船後勇平
〃　本谷良雄

熊本千曲會記事

一、熊本千曲會總會

何時も秋季十一月開催の恒例になつて居た千曲會の總會も色々の都合から少し遲れて暮も押迫つた十二月十二日熊本市新市街東洋軒にて開催と決定して會員諸氏に通知を出した。

目の廻る樣に忙しい暮（役所勤めの連中は左樣でもないが）を控へて居るにも拘らず次の諸氏の出席を得たことはよろこびに堪えない。

太田愼一郎、村田勇、貞包新吉、相澤伸司
若林新一郎、三ケ田良男、出浦長衛、三宅農富榮
長野忠顯、小川春文、林田義雄
平山俊夫、市村志眞男（順序不同）
三宅勳、坂口芳
神崎閑一、小林重

開會劈頭太田幹事より會計會務の報告あり、滿場異議なく承認可決。續いて懇親宴に入り氣焰万丈（德利は林立したが節約したから氣かんじんの美しい異性を焰千丈位だつたかも知れない）當るべからず酒中遂に次の樣な事項を決定し、この次の總會には一層有意義に會合することを申合せた。

申合事項

今後熊本千曲會總會の際は會員の研究經驗を互に發表し會員相互の知識の向上を圖りその會合を一層有意義ならしむること。然して本年秋季總會に於ては左記事項につき諸氏の發表ある筈。

(1)異なる土性の下に栽培せられたる桑葉の飼料的價値及原料繭に及ぼす影響
貞包新氏

(2)乾繭切歩と絲量との關係
相澤伸司氏

(3)會員の就職問題に就て
市村志眞衛氏

(4)セリシンの溶解機構に就て
三宅農富榮氏

尙この外會員各位の斯業に關係ある參考資料を持ち寄り研究することになつて居る。

二、遠藤教授の御來熊

一月十二日遠藤先生は鹿兒島縣及大分縣にて御講演の途次御來熊朝九時研屋支店より筆者宛電話あり、突然のことでもあり又時間も極限されてある爲めに國蠶熊本支場、縣蠶業試驗場の二ケ所を御案内したに過ぎなかつた。

遠藤先生の御來熊は十數年振りの由にて初めての御來熊の頃は市内に輕便鐵道がおり黑煙りを吐いて時代物の機關車が街路を走つて居た樣である。

遠路御疲れの處で先生には甚だ御迷惑とは思はれたが市内在住の會員と偕行社の食堂で晝食を共にして頂き久し振りに上田の御話を御伺ひした。

此の爲めに午後〇時五十分の急行にて鹿兒島へ向け御出發の所を吾々の我儘から二時の普通列車迄延長して頂いたことは遠路御疲れの際でもあり會員一同恐縮に堪えない次第である。

（小林重男記）

左は當日出席者の寄せ書である。

丑年七久里會

場所　例年の通り別所溫泉花屋ホテル
日時　正月二日正午頃より夜十一時迄
目的　新年會（千曲會員たるの他制限なし）

地元の我々は何時も見慣れた顏の集まりの樣で左程に興奮も期待してゐなかつたが、遠方から集まつて來られた諸兄の顏には、正月の御慶と、孝心の滿足と、『宮仕へ』からの解放等をカクテルにしたような包みきれない色がはつきり見えた。

自己紹介も何時頃終つたか誰も知らなかつた。地元の浦生、倉澤、林、齋藤氏等の大人の他に、八木氏、石坂氏の珍し顏を迎へ、北澤（周）氏以下中卒、新卒連合せて三十五人の多數が見えて實に喜びの一夕であつた。何れも元氣な顏の中に、山岸（恒）君の魔術は實に天晴れの出來榮えであつた。

（竹、山記）

左は當日出席者の寄せ書である。

會員動靜（二月五日現在）

A、勤務先ノ移動並ニ訂正

今井又藏（蠶一）
古山宗八（蠶二）
近藤正巳（蠶三）
古東幹太（蠶六）
細野新太郎（蠶九）
安仲勳（蠶九）
池田正五郎（蠶一一）
増田孝（蠶一一）
前田雅弘（蠶一三）
中澤薫（蠶一四）
鈴木雄七（蠶一五）
橋本博（蠶一七）
酒井嘉美（蠶一七）
河淵益美（蠶一八）
朴均宅（蠶一九）
小野寺克治（蠶一九）
若林榮（蠶一九）
森川博（蠶二〇）
有賀彰夫（蠶二〇）
都炅華（蠶二〇）
新野元治郎（蠶二一）
百瀬正（蠶二一）
大野孝治（蠶二一）
手塚達郎（蠶二一）
鎧塚好作（蠶二二）
古平義男（蠶二二）
水野義男（蠶二二）
西澤正一（蠶二二）
國島正（蠶二二）
鈴木茂（蠶二二）
小松茂男（蠶二二）
岡庭武治（蠶二三）
關熙（蠶二三）
丸川貞雄（蠶二三）
小野忠（蠶二三）
母袋忠右衛門（蠶二三）
太田清藏（絲一）
甲斐肇（絲二）
酒井五十三（絲二）
鹽見喜六（絲三）
佐藤金六（絲五）
的場小六（絲六）
甲田勝衛（絲七）
依田武治（絲九）
小山俊吾（絲一〇）
常木朝憲（絲一二）
佐藤季子男（絲一三）
久保田松藏（絲一四）
井上保雄（絲一五）
庭野明之助（絲一六）
和田益美（絲一六）
齋藤監（絲一六）
山崎道雄（絲一七）
程振夏（絲一七）
山田保士（絲一八）
荒木愼藏（絲一八）
西山省（絲一九）
竹内正司（絲二〇）
秦彰（絲二〇）
林英雄（絲二一）
三宅農富榮（絲二一）
中村壽惠男（絲二二）
山浦克巳（絲二三）
桑木正義（絲二三）
清水健一（絲二三）
青木善次（絲二三）
杉木正義（紡一）
小林良亘（紡二）
安部恒雄（紡二）
宇野修次（紡四）
宮西靈二（紡七）
宇治義春（紡七）
加藤敏雄（紡七）
橋本辰次郎（紡七）
山手信男（紡九）
竹内方榮（紡九）
西村盈保（紡一〇）
丸山力藏（紡一一）
篠田正信（紡一二）
手塚勇（紡一二）
矢島行雄（紡一三）
榎本健治（紡一三）
山本七郎（紡一四）
黑岩君雄（紡一四）
中野六郎（紡一四）
藤松利八（紡一五）
上田正三（紡一五）
高橋スヅ（舊教）
伊藤はる子（舊教）
掛川泰子（舊教）
小林敏子（舊教）
兒玉光子（舊教）
田中てる子（舊教）
山田かなめ（舊教）
丸茂まさ江（舊教）
橋本あい（舊教）
橋本きぬ子（舊教）
柳澤よし子（舊教）
柳澤喜代子（舊教）
宮島志壽子（教一）
玉子光子（教二）
近藤たけ（教二）
飯島六（教二）
三谷秀子（教二）
臼井和子（教三）
春原さと（教三）
宮城久子（教三）

（勤）山形縣最上郡農會
（勤）仙台市宮城縣廳内、宮城縣養蠶組合聯合會（住）仙台市本町通二一〇庄子方
（勤）宮城縣亘理町、宮城縣立亘理養蠶園藝學校
（勤）宮城縣中新田町、宮城縣立加美農蠶學校（訂正）
（勤）川越市下松江町、埼玉縣蠶業取締所川越支所
（勤）中津市、鐘紡製絲部大分支部築上駐在（住）從前通り
（勤）南滿洲熊岳城、滿鐵熊岳城農事試驗場（住）熊岳城大正街六（訂正）
（勤）東京市荒川區南千住町五ノ一七、株式會社清水屋商店、電話淺一三九四
（勤）山形市、山形縣蠶業試驗場
（勤）高知市、高知縣廳經濟課（住）高知市小津町一一九
鈴木十八ハ鈴木ト訂正ス
（勤）千葉縣四街道陸軍野戰砲兵學校高射砲隊（住）千葉縣四街道花島鏡次郎方
（勤）新潟縣中浦原郡村松町、片倉越後製絲株式會社
（勤）有限責任東豫乾繭販賣利用組合（住）愛媛縣新居郡橘村野々市秋山ユウ方
（勤）朝鮮全州府外、全羅北道原蠶種製造所（住）勤務先官舍
（勤）酒田市本町三丁目、飽海郡養蠶業組合（住）酒田市本町三丁目
（勤）山形縣天童町、片倉天童出張所（勤務先改稱）
（勤）熊本縣葦北郡佐敷町、熊本縣蠶業取締所佐敷支所
（勤）松本市蠶玉町、片倉普及團（住）松本市縣町北區二二二三
（勤）朝鮮京畿道楊平郡廳（住）京畿道楊平郡葛山面楊根里九三
（勤）郡山市田中三八、片倉安積工場
（勤）長野縣岡田、長野縣蠶業試驗場
（勤）福島縣伊達郡湯野村、片倉伊達製絲所（住）湯野村字田中一（勤務先改稱）
（勤）名古屋市愛知縣廳内、愛知縣蠶業取締所（住）名古屋市東區黑門町一二九小田幸吉方
（勤）本校養蠶科
（勤）東京市麴町區大手町、農林省蠶絲局蠶業課
（勤）東京市杉並區高圓寺、農林省蠶業試驗場
（勤）仝上
（勤）大垣市、岐阜縣蠶業取締所大垣支所（住）大垣市青柳町
（勤）松本市、片倉蠶業試驗所
（勤）滿洲國安東縣廣濟街、安東柞蠶絲檢査所
（勤）群馬縣多野郡藤岡町、群馬縣蠶業取締所藤岡支所（住）藤岡町宮本町
（勤）京都府船井郡上和知村、郡是製絲和知工場（兵役）朝鮮咸興府、歩兵第七十四聯隊第五中隊幹部候補生
（兵役）宇都宮輜重兵第十二聯隊第二中隊第三班
（兵役）宇都宮輜重兵第十二聯隊第二中隊第四班
（勤）朝鮮京城府黃金町一ノ六三、三井物産京城生絲支部
（勤）兵庫縣永上郡成松町、郡是製絲成松工場
（勤）一宮市、片倉愛知製絲所（住）勤務先ニ同ジ
（勤）神戸市林田區御崎町一ノ一、鐘紡營業部蠶業課（住）神戸市須磨區關守町三ノ一六
（勤）東京市小石川區初音町四、御法川工場（住）東京市杉並區天沼町一ノ一三一
（勤）鳥取市外、郡是製絲鳥取工場
（勤）津山市二ノ宮、郡是製絲津山工場
（勤）神戸市神戸區西町興銀ビル内、紡機製造株式會社
（勤）本校製絲科
（勤）福岡縣遠賀郡折尾町、保證責任還賀乾繭共同販賣購買利用組合（住）折尾町大字折尾一一四
（勤）横濱市中區本町四丁目、旭シルク株式會社
（勤）岐阜市福住町、美濃乾繭組合
（勤）埼玉縣大宮町、片倉大宮試驗所
（勤）群馬縣新田郡尾島町、群馬社東毛工場
（勤）三原市、片倉三原製絲所（町ヲ市ニ改ム）
（勤）兵庫縣和田山町、片倉和田山製絲所（勤務先改稱）
（勤）高松市、香川縣廳經濟部農林課
（勤）中華民國上海行無錫工運橋乾生繰絲廠（住）中華民國上海行無錫城中熙春街二號
（勤）三重縣三重郡大矢知村垂坂、亀山製絲五島工場
（勤）諏訪郡豊田村、東英社山王工場
（勤）愛媛縣越知郡富田村、片倉愛媛製絲所（勤務先改稱）
（勤）仝上
（勤）東京市麴町區大手町、農林省蠶絲局產繭課（住）東京市深川區千田町七ノ二中田方
（勤）香川縣木田郡平井町池戸、香川縣繭檢定所
（勤）熊本市南千反畑町九二、日東製絲熊本出張所
（勤）津山市二宮、郡是製絲津山工場
（勤）岡谷市、丸興製絲角六工場
正茂ハ正義ト訂正ス
（勤）小縣郡大門村、大門小學校
（勤）兵庫縣加古郡高砂町、鐘淵紡績株式會社高砂人絹工場
（勤）三原市、東洋麻絲紡績株式會社（住）三原市舘町（町ヲ市ニ改ム）
（勤）前橋市外元總社村、保證責任販賣組合群馬社（勤務先改稱）
（勤）郡山市外富久山村、日東紡績富久山工場
（勤）郡山市赤木町一六六
（住）滿洲國三河省樺川縣佳木斯野戰郵便局氣付、永豊鎭移民團
（勤）大阪市北區梅田町二六、發動機製造株式會社、電話（36）一四七一（住）豊中市高砂通二丁目
（勤）郡山市外富久山村、日東紡績富久山工場
（住）福島縣安積郡永盛村大字荒井字柴宮二九
（勤）福島市外杉妻村、日東紡績福島工場（住）勤務先社宅
（勤）滿洲國奉天末廣町四、滿洲製麻奉天工場（住）奉天末廣町四
（勤）朝鮮咸鏡南道文坪稅關派出所（住）勤務先官舍
（勤）大阪府三島郡高槻町芥川、鏡紡高槻工場（勤務先改稱）
（勤）大阪市旭區鴫野町五四一、株式會社天滿小森鐵工所（訂正）
（勤）福井縣今立郡鯖江町、商工省福井輸出絹織物檢査所鯖江支所
（勤）大垣市室村町、鏡紡大垣工場（勤先改稱）
（勤）德島市外北島村高房、東邦人造織維德島工場（住）勤務先社内東邦倶樂部
（勤）大阪府三島郡高槻町芥川、鐘紡高槻工場（住）大阪府三島郡高槻町芥川河西（勤務先改稱）
（勤）津市下部田町、錦華毛絲津工場
（勤）靜岡市外長沼、三光紡績靜岡工場
（兵役）朝鮮羅南、山砲兵第二十五聯隊第十一中隊第一班
哲秀ト改名
（勤）名古屋市東區織部町一、大東紡織株式會社名古屋工場（社名變更）
（住）名古屋市東區德川町五丁目安田豊方
（兵役）熊本輜重兵第六聯隊第二中隊
（勤）埼玉縣兒玉郡本庄町、昭榮製絲株式會社
（勤）廣島縣雙三郡十日市町、廣島北部乾繭組合更生社（住）勤務先ニ同ジ
同上
（勤）福岡縣筑紫郡二日市町、昭榮製絲二日市工場（住）勤務先ニ同ジ
（勤）ナシ（住）上田市大工町
（勤）ナシ（住）小縣郡丸子町腰越
（勤）群馬縣多野郡神流村、丸や廣文舘製絲所（住）神流村
退會
同
同
（勤）ナシ（住）上田市愛宕町
（勤）岡山縣英山郡江見町、片倉江見製絲所（勤務先改稱）
（勤）愛媛縣越知郡富田村、片倉愛媛製絲所（勤務先改稱）
（勤）ナシ（住）小縣郡鹽尻村秋和
田中ト改姓（住）朝鮮釜山府水晶町一
（勤）愛媛縣越智郡富田村、片倉愛媛製絲所（勤務先改稱）
（勤）同上
（勤）ナシ（住）埴科郡五加村中

B、勤務先從前通リニシテ住所ノミノ移動並ニ訂正

福谷朝太郎（蠶一）（住）朝鮮忠淸北道永同本町
絹村頁（蠶一）（住）仙台市中杉山通三五
宮坂正彦（蠶二）（住）德島市佐古町七丁目
松谷鑛之助（蠶三）（住）前橋市南曲町二三
安孫子文彌（蠶三）（住）關東州普蘭店朝陽寺楊樹房屯
立岩笑保（蠶三）（住）京都市右京區桂川島町
尾見祐八（蠶五）（住）朝鮮京城府龍頭町一三八
中島靜太郎（蠶五）（住）岡山縣勝間田郡勝間田町
村田勺（蠶六）（住）熊本縣山鹿下町
井上克巳（蠶六）（住）鳥取市片原町三ノ三五
窪田禎作（蠶七）（住）高知市北本町一ノ一〇四（町名變更）
中田太郎（蠶七）（住）福岡縣筑紫郡大野村瓦田、蠶業試驗場官舍
中島茂司（蠶八）（住）埴科郡屋代町
荻野轍間（蠶八）（住）朝鮮江原道春川邑花園町一丁目
小島杉門（蠶八）（住）群馬縣佐波郡境町五〇四
坂田正賛（蠶八）（住）滿洲國奉天市藤浪町三四
吉川孟文（蠶八）（住）京都市左京區下鴨上川原町九〇
佐藤重太郎（蠶九）（住）福島市會根田町四尻町一七
古川俊之（蠶一〇）（住）南安曇郡梓村
奥野憲三（蠶一一）（住）東筑摩郡中川手村
岩根謙（蠶一一）（住）群馬縣沼田町坊新田一一四
仲內靜（蠶一二）（住）南佐久郡野澤町二一
山下忠雄（蠶一五）（住）秋田市楢山登町九三
遠藤正壽（蠶一五）（住）宮城縣小牛田町牛飼藥師前一
片山次夫（蠶一五）（住）岐阜市外加納町本町六ノ四八
坂田武（蠶一六）（住）長野市外岡田一三七ノ三
北澤孝一（蠶一六）（住）埼玉縣北足立郡與野町下落合一六九二
田村亮（蠶一七）（住）高山市西村木町
田中亮（蠶一七）（住）臺北市昭和町一一五
鷹本藏一郎（蠶一九）（住）愛媛縣新居郡西條町榮町
岡本正男（蠶一九）（住）水戶市松本町二三六一
香山登（蠶二〇）泰三卜改名（住）松本市若松町一五八二
鷹野貞雄（蠶二〇）（住）南佐久郡岸野村
伊藤幸男（蠶二二）（住）郡山市田中三八
中村壽一郎（蠶二三）（住）福岡市馬出御綱町西田方
戴元亨（蠶二三）（住）東京市豐島區駒込六ノ五五六橫田方
中澤周藏（絲一）（住）中華民國青島廣鏡路六號
川合軍之助（絲一）（住）東京市中野區小瀧町五〇（訂正）
林部源三郎（絲一）（住）東京市大森區入新井六ノ一二〇
後藤富次郎（絲一）（住）橫濱市神奈川區淺間台六（町名改正）
湯淺長輝（絲二）（住）神戶市灘區稗原一丁目一五ノ三
府川作平（絲二）（住）橫濱市中區本牧三ノ谷七〇
菅井辰三郎（絲四）（住）仙臺市東三番町一七九
松尾順策（絲四）（住）東京市王子區神谷町一ノ二六二
伊藤勢龜（絲四）（住）神戶市須磨區上細澤町一ノ一〇
岡村源一（絲六）（住）松本市南源地三六（同町公園北方松本製氷會社西側）
原英三（絲六）（住）橫濱市神奈川區子安臺二
三浦重雄（絲七）（住）滿洲國安東縣驛前通三ノ二
池田忠治郎（絲七）（住）群馬縣吾妻郡中之條八八六
五十嵐健（絲七）（住）朝鮮全州府老松町
吉開亮一（絲七）（住）橫濱市神奈川區桐畑三四
大塚重藏（絲八）（住）神戶市灘區泉通三ノ二三
富田庄三郎（絲八）（住）福島縣信夫郡野田村
佐藤與四次（絲八）（住）高崎市八島町一八九
本間久（絲八）（住）奈良縣八木町六一
倉橋琢而（絲一〇）（住）神戶市灘區高羽老松二
蒲生勇一（絲一〇）（住）岐阜市徹明町六、戶川方
井原邦雄（絲一〇）（住）東京市中野區住吉町三〇〇
土屋勳（絲一二）（住）名古屋市六句町一ノ一〇〇（訂正）
中岡岡（絲一二）（住）松山市祗園町三六
南林孝三（絲一三）（住）島根縣簸川郡大津村大正町
半田辰猪（絲一三）（住）新潟縣小出町柳原
渡部齋（絲一三）（住）兵庫縣魚崎町橫屋字內田四〇ノ一
小平光雄（絲一三）（住）東京市杉並區成宗一ノ七〇
望月榮作（絲一三）（住）宮崎市外赤江町恒久
岡島米吉（絲一四）（住）橫濱市神奈川區六角橋町池下一五〇
高橋伊作（絲一四）（住）滋賀縣彥根町大字西榮二ノ六五
佐藤忠二郎（絲一五）（住）神戶市葺合區野崎通六ノ三三
小口兼男（絲一五）（住）岡谷市三二八六
中島還（絲一六）（住）東京市淀橋區上落合二ノ七〇〇
富岡秀（絲一六）（住）東京市荒川區日暮里町九ノ一九
小山祖光（絲一六）（住）福岡市地行東町三番町二七九
片倉二郎（絲一七）（住）姬路市北條二五〇
井野正夫（絲一八）（住）橫濱市神奈川區鳥越二二
小口勝三（絲一八）（住）熊谷市箱田區五九四
松井慧二（絲一八）（住）岐阜市早田
千葉達人（絲一八）（住）山形縣長井町小出
野田太郎（絲一八）（住）朝鮮黃海道海州北幸町九九
林清市（絲一九）（住）熊谷市筑波町七〇一
小關悅郎（絲一九）（住）栃木縣小山町稻葉鄉
大木定雄（絲一九）（住）前橋市萩町一九七
東家明秀（絲一九）（住）福岡市外箱崎東新町二三〇四
伊藤猛（絲二〇）（住）朝鮮京城府龍頭町一三八
岩本賢次（絲二一）（住）東京市品川區大井出石町五〇九八、井鍋方
深井重一（絲二二）（住）東京府北多摩郡武藏野町西窪七五八、岡田方
小川茂治（絲二二）（住）滿洲國哈爾濱三棵樹南棵街白雲南寮
高原稔（絲二三）（住）前橋市向町五八第一紫明寮
山口悠紀男（絲二三）（住）前橋市向町五八第二紫明寮
牧式太郎（絲二三）（住）大分市外日岡村
井上一郎（紡一）（住）橫濱市鶴見區鶴見町三八八（訂正）
佐藤一（紡二）（住）德島市外北島村高房東邦閣
三宅玉留（紡四）（住）前橋市曲輪町五九
後藤雄三（紡四）（住）岐阜縣養老郡池邊村大字瑞穗（訂正）
清水六郎（紡五）（住）福島市外杉妻村、日東紡績大平寺社宅
廣瀨廣（紡六）（住）神戶市葺合區宮本通七ノ四五
本田圭吉（紡六）（住）金澤市川上新町三ノ三四
吉田亮（紡七）（住）大阪市東成區林寺町二八一
山下昂（紡八）（住）京都市左京區高野淸水、鐘紡至誠寮
加藤明（紡八）（住）朝鮮釜山府門峴里朝紡社宅八ノ一（訂正）
平野岩夫（紡九）（住）姬路市八代一一三
三浦長市（紡九）（住）大阪府泉北郡大津町豐中
四宮太郎（紡九）（住）滋賀縣彥根町宇丸野木三〇
內藤邦雄（紡九）（住）大阪市住吉區阿倍野筋二丁目府官舍
瀨脇休信（紡一〇）（住）京都府和泉町一〇八
近藤清一（紡一一）（住）岡山縣玉島町倉紡社宅
北澤琢郎（紡一二）（住）橫濱市神奈川區澤渡二〇、山崎方
近藤義信（紡一二）（住）名古屋市西區日比津町二三七
唐澤正（紡一三）（住）東京市中野區新井町五二五、齋藤方
河村信夫（紡一四）（住）京都市七條烏丸東、伊藤方
木下重政（紡一四）（住）滋賀縣神崎郡五峯村宇林三一五
西原芳（教一）（住）上田市常磐城二九（訂正）
中塚ミツ子（教四）（住）金澤市榮町八

年賀返禮併せてお願ひ

新年の賀狀辱く御禮申上げます。毎年會員名簿を作成するに當りては豫め往復端書にて現住所問合せの必要がありますが經費其他の都合にてその事を省略して居ります。そのかはり二、三年前から校長宛年賀狀並に暑中見舞狀をあとでお借りして餘程名簿の誤りを訂正して居ります。今年は校長宛のもの許りで無く更に岡先生、香山先生、久保氏宛の賀狀等を拜見させて頂く機會を得ました。從つて多數の名簿誤りを發見いたしました。實際今月發表の移動は直接千曲會宛通知のものは少く大部分賀狀により訂正したものと御承知下さい。

次に甚だ蟲のよい勝手なお願ひですが今年の暑中見舞からは校長宛と同時に千曲會宛へも一通是非頂戴いたしたいものです。それによつて吾等の名簿を益々正確なものといたしませう。（名簿係）

投稿規定

一、內容は不問、平易なる學術研究、會員消息に關する物は特に歡迎。取捨は當方に一任せられたい。編輯の都合に依り全部又は一部を來月廻しとする事がある。

一、原稿は特に豫め申込無き限り返戻致しません。

一、締切は毎月六日限、特に一月號は一日發行とする爲め二十日限とする。

一、原稿は開封し二錢切手（第四種百十瓦迄）を貼布して送附し通信文があつたら別に葉書等にて通知されるが得策である。

一、必ず原稿紙を使用し明瞭にお書き下さい。又句讀點を必ず施して一字分の間隔を置いて下さい。

一、匿名で掲載希望の場合も編輯部丈へは姓名をお明し下さい。然らざる時は遺憾乍ら掲載を見合せる場合があります。

一、圖面や寄せ書は一尺八寸×一尺三寸以內とし必ず白紙に墨書して下さい。

一、原稿紙は御請求次第送附す。普通の原稿紙を使用する場合は一行十八字丈書込まれ度い。

廣告規定

寸法／期間	一月	六月	一年
一頁	一三、〇〇円	六四、〇〇円	一二六、〇〇円
1/2頁	七、五〇	四〇、〇〇	七〇、〇〇
1/4頁	四、五〇	二三、〇〇	四〇、〇〇
1/8頁	二、五〇	一三、〇〇	二四、〇〇
1/16頁	一、五〇	七、五〇	一四、〇〇
1/25頁	一、〇〇	五、五〇	一〇、〇〇

但し本會員は七掛とす。

編輯室より

△毎々本紙に有益なる御寄稿を下さる石倉先生が又本月號にも時宜に達した一文の御寄稿を忝うし何時も不足に惱んでゐる第一面を飾る事が出來たのを喜ぶ。本紙を通じて先生に深き感謝の意を表する斯くの如く母校の先生方の御寄稿下さる事は一入の嬉しさを感ずるものである。

△同窓會員から御兩人の御榮進があつた即ち助教授野口新太郎氏が教授となられ講師小林尙一氏が助教授に任官された事である。我等は衷心からお喜の言葉を呈すると共に切に御健闘を祈つて已まない

△それに反して勤續二十年の竹下文英氏の去られた事はこよなき淋しさ覺える。その長年月に亘り御骨折に對し我等同窓は深き感謝を捧げねばならぬ。存在の大きかつた方丈にその思出は實に多い。我等のライター倉澤氏が思出の記を書いて下さる約束であつたが間に合はず殘念であつた。來月號には載せる事が出來ると期待してゐる。

△中會根氏から御寄稿『筑波颯』の劈頭に於て、本紙十二月號所載の代議員の筆記が間違つてゐると手嚴しいお叱りを受けた。編輯子も當時の速記係のメンバーの一人であつて見れば責任上一言なかるべからずである。その筆記たるや根が素人の速記したもの故或は聞き違へたかも知れない。此處に改めてお詫びを申上げると共に全文を訂正する。然し一方に於て發言者の云ひ表はし方も惡かつたのでは無いかと思ふ節も無いでは無い。何れにせよ提出者がそう云ふ意味であると云ふのならば兎や角云はずに訂正する事がよいと思ふ。

△インフン景氣は物價が高くなる代り收入が增加するから損は無いそうであるが我々サラリーマンにはその代りかゞ更に無いのでこの先どうなるかと靑息吐息である。これは編輯子の腹の內の話であるが、更にその影響は時報に迄及んで來た印刷代、紙代の値上げがそれである。或は頁數を減少しなければならぬかと悲觀してゐる。然しなるべくはこんな消極的な手段は執り度く無い。積極的な手段とは。之は廣告を取る以外に方法は無い。殘念な事には近頃は廣告は多少減少の傾向を辿つてゐる。編輯部でも一段と骨を折る積りであるが會員諸氏に置かれても何卒本紙を廣告に利用さるゝは勿論、最寄の廣告の御世話が願ひ度い。失禮な云ひ分かも知れぬが多少の謝禮をする事も考へてゐる。

△時報の未着を云つて來られる方が每月數名を下つた事は無い。斯う云ふ方々に對しては申譯が無いと思ふと共に本紙に關心深き方として感謝してゐる。未着の時は必ず御一報を煩し度い。然してなるべく編輯子宛直接通知して欲しい。それが最も早く且つ確實に目的を達せられる方法であると思ふから。

△會員の死去と云ふことは相當に重要に取扱ふ考へでその寫眞及弔慰文の蒐集には可成骨を折つてゐるがどうも思ふ樣に集らないで困つてゐる。故田口氏には寫眞も弔慰文も無く故井出氏に弔慰文がたつた一篇あつたのみである。之では餘り冷淡過ぎはせぬか。最寄會員の奮起を切望する。斯うした事に對して當該支會に御骨折を願ふ事は無理であらうか。

△スキー場で待ち焦れてゐた雪も肝腎な年末から年始にかけて碌に降らず今頃になつて降り續き漸く冬だなあと思はせる。然しそれも雪丈で每日冬らしくない暖かさが續く。凡そ冬暖いなんて薄氣味惡いものである。現在住みよくても炭が經濟になつても何かしら不安な氣持に滿されてゐる。インフレ景氣に乘つてゐる我國の現狀と一脈相通ずる處があるでは無いか。

醫療藥品
化學藥品
理化學器械
寫眞材料
上田市海野町
河合藥品器械舗
電話二一七番
振替長野七八四番

2597 春蠶種！熊本長野へ

富豐量卵
定安作蠶
富豐量繭收
良優質絲

國蠶日一二二號×國蠶支一〇七號
國蠶歐一九號×國蠶支一〇七號
國蠶歐一九號×國蠶支一七號
國蠶日八號×國蠶支一七號
國蠶歐一六號×國蠶支一六號
分離白一號×國蠶支一〇七號

會照御他其績成驗試▷
◁候上申報速第次

熊本市大江町六〇五
長野製種組
電話五九八番
振替熊本二三〇〇番

御來田のお土產は
みすゞ飴
杏ゼリー
晒水飴
杏羊羹
信濃そば
上のフルーツ
チョコレート
黑羊羹
クルミ羊羹
果物類
罐詰
上田市松尾町
上飯島商店
電話二六〇・二五四

御宴會に御會食に
レストラン
香靑軒
明朗な洋室　落付いた
和室（數室）
上田市袋町　電話13番

千曲會指定旅館
泉温所別
花屋ホテル
電話一三三番
柏屋別莊
電話一二番
茶代廢止
御宿料二圓

千曲會指定旅館
上村ホテル
上田市海野町
電話三二七番

昭和十一年度製造原蠶種
國蠶日八號　國蠶歐十九號
佛純白繭　分離白一號
國蠶歐十六號　國蠶支十六號
國蠶支十七號　龍華仙
國蠶日一一一號　國蠶支一〇七號
國蠶支一〇六號　浙江
普通蠶種（春）
白×國蠶歐十九號
國蠶支十七號
×國蠶日八號
國蠶支十七號
×龍華仙
浙江
黃×國蠶歐十六號
國蠶支十六號
×國蠶歐十六號
國蠶支一〇七號
廣島縣御調郡奥村綾目八六六
蠶種業　小川保
振替（廣島）二四六番
（大阪）三〇七六三番